

都市景観とユビキタス社会における都市のイメージ

-名古屋市の事例-
前田 保
名古屋大学

名古屋の玄関口新しいランドマークとして都市景観形成計画、地下街、名古屋らしさでの強烈なインパクトがある名古屋駅前、ターミナル駅前周辺と再開発の変貌が進む。名古屋のイメージをアピールするため、社会生活情報などに必要な、街、都市イメージや観光客やイベント情報、画像や動画による情報を容易に提供・修正・閲覧が可能なシステム化が望まれる。

Ubiquitous scope Town vista & The Image of City

-Nagoya city of a case-
Tamotsu MAEDA
Nagoya University

Cityscape formation plan, underground town and Nagoya it seems as the Nagoya entryway new landmark with around before the Nagoya station which is intense impact and before the terminal station and transfiguration of re-development advances. In order to appeal the Nagoya image, necessity for the information and the like of social life is, the town, city image and sightseer and event information and the information by the picture and animated picture the systematization whose is easily offer correction perusal possible is desired.

1. はじめに

ユビキタス社会とは「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」がコンピューターネットワークを初めとしたネットワークにつながることで、様々なサービスが提供され、人々の生活をより豊かにする社会である。「いつでも、どこでも」とはパソコンによってネットワークにつながるだけでなく、携帯情報端末をはじめ屋外や電車・自動車等、あらゆる時間・場所でネットワークにつながる事であり、「何でも、誰でも」とはパソコン同士だけでなく家電等のあらゆる物を含めて、物と物、人と物、人と人がつながることである。注1)

元気・安心・感動・便利な社会の実現のためには、ITの利活用による具体的な仕組みを必要な方策を実行すれば、21世紀型の社会・経済システムのあり方を世界に情報発信することにより、アピールできるのではない。

名古屋市の全体のイメージの中ではその一つの背景には、名古屋の地下鉄や地下街ではGPSが利用できないことが多いため、無線LAN位置推定機能を持つ小型携帯端末 (Apple iPod touch) 上には、名古屋市営地下鉄の構内図をはじめ、路線図、時刻表、周辺位置依存情報データサービスなどが搭載され、現在の位置推定情報に基づいて適正な情報を提示することができる。また、友達探しのアプリケーションでは、無線LANを通じて地下鉄駅からチャットを楽しみながら、お互いの位置を確認することができる。

・新聞記事：<http://locky.jp/pr/nagoyaUG/20081128-chunichi19.pdf> (資料3)

2. 方法と進め方

本研究は、環境学からみる21世紀の地方分権における街は市民の生活を軸として構想されるべきものであり、長い年月を経た建築や景観には、故郷を懐かしく思う気持ちにも似た不思議な外観がある。それを特に駅前エリアごとの対応できるシナリオと都市景観形成計画を都市の機能、発見できるまち、名古屋市が目指している。

名古屋新世紀計画2010を公表、この計画は、名古屋市基本構想に基づく第3次の長期総合計画であり、21世紀初頭の名古屋のまちづくりの指針となる。

2010年・名古屋がめざす都市像2010年計画には、名古屋がめざす8つの都市像、①福祉・安全都市、②生きがい実感都市、③循環型環境都市、④快適空間都市、⑤にぎわい創造都市、⑥文化ふれあい都市、⑦情報・産業技術都市、⑧国際交流都市、2010年に向け名古屋がめざすまちのイメージを、生活、環境、文化、産業の4つの側面から「8つの都市像」として明らかにし、その実現に向けた取組みの

方向性を示すまちづくりを総合的、計画的にすすめる観点から主要な施策を統合するなどし、先導的なプロジェクトを掲げている。(資料1)

それを踏まえた上で次のような最近見直されようとしている名古屋市景観計画、取組みをユビキタス社会における都市のイメージ、名古屋駅地区について具体的な手法で、どんなことができるのか考察し、21世紀型の社会・経済システム化することでのあり方をどうアピールできるかが、この課題ではないかと考えている。

2010年国際会議を誘致させることができたが、これを切っ掛けに国際環境都市といえるような、誘導できる名古屋駅前に、初めての高層ビルとして建設された名古屋ビルディング、1月に新しいビルが竣工し、名古屋市では2010年に生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催に向けて環境整う名古屋駅地区、注目の集まる中、これからのまちづくりにつて環境整備に配慮しながらビルの建替えに取り組みされた名駅地区で民間からまちづくり協議会を立ち上げられた。

3. 名古屋駅前の景観計画

名古屋駅前の景観計画はこのほど、名古屋市景観計画が2008年4月に決定され、10月1日から適用になりこの景観計画のうち名古屋駅前都市景観形成地区を取り上げて述べたい。(注2)

名古屋駅前は「元気・安心・感動・便利」社会の実現を目指して都市づくりを目指している。

それには、ITを利活用した都市計画・まちづくりが必要と考える。でもそれには一般社会において通用するいわゆる名古屋市民が納得できるような、説明が必要と考えている。これは公務員が責任を負っている。(注3)

一方平成15年7月に国土交通省から出された「美しい国づくり政策大綱」は、これまでの社会資本整備が量的充足を追求するあまり質の面でおろそかになっていた部分があったことをくにとしてはじめて認めたという意味で、画期的であった。そして、大綱をもとに景観法が制定されるとともに、良好な景観形成のための各種施策が制度化され、今日では多くの地方公共団体において相当の取り組みが行われるにいたった。しかし、景観法の理念をより実効あるものにするためには景観行政団体である地方公共団体によるさらなる景観政策の展開と、民間事業等の理解と協力が、今後ともなお一層必要である。

名古屋駅と栄までにあるまち、伏見・長者町である。かつて、名古屋市が伏見・長者町ベンチャータウン構想のねらい「名古屋市産業活性化プラン平成17年3月」において「ベンチャータウン構想」を掲げた。デザイン・ファッション・デジタルコンテンツ産業などの都市型産業を育成するために、創業者が事業をはじめやすい環境を整備し、都市型産業を担う創業者が集まるベンチャータウンの形成をめざした。

伏見・長者町は、日本三大繊維問屋街のひとつとして全国的にも知られていましたが、近年、繊維問屋の産業により空きビルが増え、衰退を食い止めようと立ち上げたのが、このベンチャータウン構想により、地元の熱意あるまちづくり活動と連携しながら新たな産業を創出し、魅力と賑わいあるまちとしての復興をめざした。

ここではいろんな方々が居住ないしはお店を発展させようとする願いがあり、産学官、企業などによる連携が人用である。(文献3)

さらに、国の制度を活用され、無線インターネット放送による中心商業地(名古屋市伏見・長者町地区)の活性化の取り組みがなされているところであり、情報発信するメディア企業による長者町インターネット放送HP: <http://chojamachi.tv/blog/index.php> (CHOJA247) まちの方々に街の紹介、地域に密着したドキュメンタリー番組、最終的には市民情報発信番組が最終の目標である。インターネット情報通信技術 ICT (information and communication technology) 活用いつでもどこでもコンピューターやネットワークを利用できる「ユビキタス社会」時代の ICT (情報通信技術) の活用、まちづくりに ICT を生かすため、カーナビゲーションシステムや電子タグ、携帯電話などのシステムの統合が必要と提言された。報告書ではほかに、高齢者らの安全確保のため緊急通報システムの整備が必要と提言。

主な内容はインタビュー番組、ワイド番組、特派員制度、地元でのワークショップ、さらには国際的な視野で錦二丁目には14地区に街区のまちとして、名古屋では珍しいまちの再生に取り組みの具体例である。また、最終的な評価するのは市民であり、またそこに集まってかつての賑わいをまちづくり協働が必要である。(資料4)

博覧会をテコに発展してきた名古屋、しかし、デザイン博、愛知万博と、名古屋はどれも博覧会にこだわっているような気がするのだが、どうだろう。実は、この博覧会好き、名古屋にとってはむしろ伝統的な体質なのかもしれない。

だが、ハード面が充実したからといって、ソフト面がそれにともなって進歩発展しているといえ、かならずしもそうではない。



図1 名古屋駅地区周辺地図

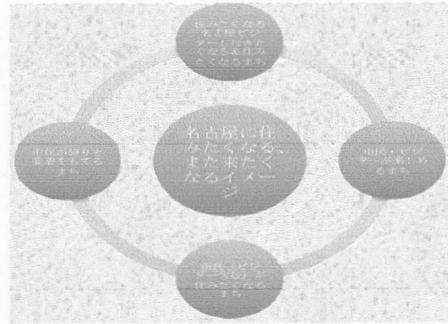


図2 住みたくなる、また来たくなる都市イメージ図

2. 都市のイメージ

1960年に出版された米国の都市計画学会のケビン・リンチの著書のタイトルである。この本は、都市の形態を人間の知覚を通じて認識されたイメージによって分析する都市空間の解析手法を著したもので、都市の環境の評価する重要な視点として、住民にとっての都市空間のイメージし易さ (image ability) , その結果としての、都市の構造の分かり易さ (legibility) をあげている。(文献3)

新しいまちづくりのあり方に向けてめざすべき都市にイメージとは、最近名古屋市顕官計画が景観法に基づく景観計画を策定され、現行の都市景観整備地区において、特に都市景観形成計画の見直しを行ったところでありますが、名古屋駅前地区について、その名古屋市景観計画（以下、景観計画という）を課題として今回の論文テーマに即した提案ができればと考えている。

都市景観は、その都市に生活する市民の文化を最も端的に表現するものであり、すぐれた都市景観は、都市の個性を生み、市民の心を豊かにし、そこに愛着と誇りを感じさせてくれるとはじめに記述され手いるところである。

しかし、景観計画は、平成16年に制定された景観法を活用し、条例がある、これにあわせて都市景観施策の課題を見直す目標、美しいまちなみを形成し名古屋のまちの魅力を高めることを目的としている。注4)

名古屋駅前地区周辺において元気な名古屋と最近騒がれています、でもこのような高層ビルランドマーク化されてよいと思う方も多く、だが名古屋駅前における都市景観形成地区にすごく影響があるのではないかと考える。東京から来たしとは、なにかと名古屋も、東京のように六本木ヒルズといったところや、東京駅前の丸の内ビルの傾向がしてきたようにも見えて、これからの都市のイメージとして相応しいかどうか市民の皆さんがどのように評価する見方がそれぞれ違う見方をするであろう。まさに、名古屋駅前を代表にして個々数年で変貌しようとしていることは確かである。

2. 1 名古屋駅前に対する新聞記事に見るイメージ評価

JR・名鉄・近鉄などが乗り入れる名古屋駅は国内屈指のターミナル。これまで「元気な名古屋」を象徴するように高層ビル群を形成してきた。今春には地下36階建てでらせん状の特異な外観が特徴のモード学園スパイラルタワーが完成。駅前にはサラリーマンや買い物客に加えて学生の姿も目立つ。周辺では引き続き再開発計画があり、魅力を一段と増す可能性を秘めている。

名駅前の再開発は2000年のJRセントラルタワーを機に本格化した。核テナントの百貨店、ジェ

イアール東海高島屋は08年2月期までに7年連続で増収。根気に入ってもプラス基調を維持するなど全国の小売り関係者の注目を集めている。

09年春には名古屋市交通局の営業所跡地に東京建物や丸紅などオフィスなどが入居する高層ビルを完成させる。11年度には旧名古屋中央郵便局付近が述べ床面積約15万㎡の大規模ビルに生まれ変わる。さらに13年春までに旧国鉄貨物駅跡地など「ささしまライブ24地区」に豊田通商などが複合ビルを開業するほか、愛知大学も進出する計画だ。

一方で、国内景気全体の減速に伴う不安もくすぶる。

ただ、景気が持ち直せば、「再開発が従来の“点”から一気に“面”へと広がる段階に入る」（地元経済界）との期待が膨らむ。名古屋を代表するもう一つの繁華街、栄との相乗り効果もさらに高まりそうである。（文献2）

2. 2 名古屋駅、ターミナル駅周辺再開発取組みと変貌

2. 2. 1 名古屋市中村区名駅周辺再開発

名古屋の玄関口新しいランドマーク、地下街、中部一の高さを誇る超高層ビル、名古屋らしさでの強烈なインパクトがある名古屋駅前となることである。2000年、高さ245メートルのオフィス棟（北側51階建て）と226メートルのホテル棟（南側53階建て）のツインタワービルとして生まれ変わったJR名古屋駅（JRセントラルタワーズ）。陽光を浴びていつそう白く浮かび上がる外観は、周辺の高層ビルを小さく見せている。

最近めじろおしに名駅前周辺は、高層ビル複合立体都市型名古屋の玄関口として変貌しつつある。年表では以下のようなものである。

私が考える都市のイメージとユビキタス社会のあるとは、まちとして機能が整備され、魅力あるまちのよさを市民にこんなところで住んでみたいと思う誰しも居住し、そのまちに来たいと思うようになるまち、そんなまちに住んでみたい満足して人生一生を迎えることができたかと、頭の中で構想たるものが自分で考える夢ではないかと推察する。こんなまちに住みたい、豊かで、美しい、きれいなまち、よりよい環境でありたいと理想を、求めるものではないか。

1990年 基本構想発表

1994年 ビル名称「JRセントラルタワーズ」決定

1999年 完成

2007年1月 名古屋ルーセントタワー完成

2007年3月 ミッドランドスクエアグラウンドオープン（オフィス棟は2006年11月）

2008年2月 モード学園スパイラルタワーズ完成

2009年1月 名古屋ビルディング完成

2009年10月（仮称）愛知県産業労働センター完成予定

2013年秋 納屋橋ルネッサンスタワーズ完成予定

2. 3 都市景観と都市のイメージ

2. 3. 1 タウンスケープの概念

タウンスケープとは、town（町）とscrape（景）をあわせた用語で、一般に、町の景観、都市景観といわれるものを指している。ランドスケープ（landscape）が、土地（land）の景（scrape）として、広く風景、景色、景観を指すのに対して、タウンスケープは、その中で都市や町を対象とする風景、景色、景観を指す。地理学分野においては、町や都市の景色を包括的に見え、その視覚的環境我どどのように生じているか、個性をどのように獲得したかを理解する際の分析対象としてタウンスケープを扱っている。また、建築および都市計画分野では、タウンスケープを、一般的な都市の風景や眺めに加えて、都市環境の審美的あるいは視覚的側面、特徴のある都市全体あるいは都市の部分の眺めとして扱うことが多い。その結果、タウンスケープは、都市デザインや都市計画の対象となる都市環境の重要な様相のひとつでもある。（文献3）

最近構想としては、新聞報道によると名駅一丁目1番地区における「まちづくり基本構想」についてメディアに発表している。名古屋駅前の新しい構想である。

(1) 歩行者ネットワーク形成と賑わいづくりのため、名古屋駅から地区を南北に貫通する安全で快適な歩行者通路を整備。

(2) 歩行者通路整備と併せ、交通の結節点としてのターミナル機能強化と利用者の利便性向上を目指して、バスターミナルを地上1階レベルに集約整備。

(3) 国際都市名古屋の玄関口にふさわしい多様な都市機能の集積により、利便性の高い複合施設を開発し、名古屋駅周辺地区に更なる賑わいと活力を創出。

(4) 建物内外の広場空間等に、適切な規模の緑化を図るなどして、環境にやさしいゆとりと潤いのある魅力的な都市空間を形成。

以上のことは以下に詳しく発表されている。

ホームページ (HP) http://jr-central.co.jp/news/release/_pdf/000003917.pdf 参照

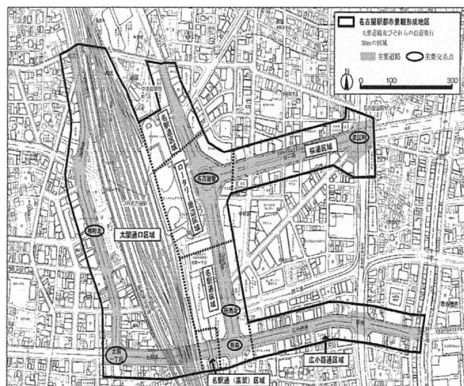


図1 名古屋駅前地区

従来の情報通信ネットワークにおいては、空間的・地理的制約、通信対象の制約、ネットワーク、端末、サービス・コンテンツの選択の制約、通信能力の制約、ネットワーク・リスクといった各種の制約が存在していた。ユビキタスネットワークにおいては、これらの制約を克服する。ユビキタスネットワークの基本コンセプトは、図表2)の5点に集約できる。1) 日常生活を豊かで、便利なものにする。2) 安心できる社会生活の実現。3) 障害者、高齢者等の社会参加の促進。4) 環境問題への対応といった社会システムの革新に寄与する。5) 個人認証によるバリアフリーの実現。こんな社会構想がユビキタス社会ではないかと考える。

目指すは、国民一人ひとりが知識を介した繋がりをもち、地理的・身体的制約にとらわれずに安心して暮らし、利便性のみならず知的感動を享受できる、「元気・安心・感動・便利」社会である。

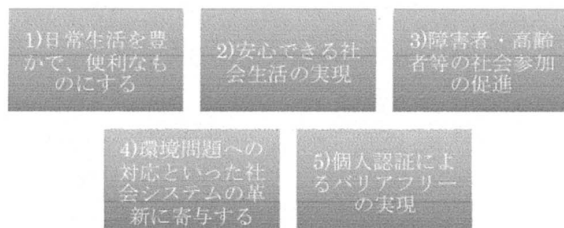


図2 ユビキタスネットワークの利用イメージ

・具体的行動の必要性となる提案は産学官連携する情報発信することである、以下理想を求める姿としてあげたい。



図 3-1 名古屋駅周辺の航空写真



図 3-2 名古屋駅前の3次元イメージ

4. 結

名駅一丁目におけるまちづくりには、歩行者ネットワーク形成と賑わいづくりのため、南北に貫通する安全で快適な歩行者通路、さらに観光客など訪れる方々のためには案内サインなど誰でもわかり易い表示、交通の結節点としてのターミナル機能強化と利用者の利便性向上、国際都市名古屋の玄関口にふさわしい多様な都市機能の集積により、名古屋駅地区に更なる賑わいと活力を創出、建物内外の広場空間などに、緑化、環境にやさしいゆとりと潤いのある魅力的な都市空間を形成できる整備が必要である。インフラとしてオープンで多目的に使える基盤技術とするために、様々なケーススタディを、名古屋市においても例えば、街中にICタグを埋め込み、ユビキタス端末で地域空間情報を得る。

これには大変な埋め込み作業が伴うが、インフラとして完成すれば、高齢者や障害者や外国人の道案内、さらには観光案内、工事関係者の地下情報収集など、数々の領域で多目的用途に応えることができることとなり、効率的な社会基盤構造を構築することができる。

全地球測位システムは、GPS (Global Positioning System) のように地勢の影響による誤差もなく、地下であっても使用可能だ。名古屋は地下街の町でもあり有効なシステムではないのかと考える。もし大都市と同じ構図で交通分野での導入ICカードの採用を考えるなら、ラッシュなどあまりない地方都市では、採算がとれないのでICカードは使われない。そういう地方での公共交通機関の一番の問題は需要が減っていること。放っておいても受け入れられないほどの大量の需要がある大都市とはそこが根本的に異なる。使ってくれない人が、使ってくれるようなアピール・ポイントを生むために技術は使わなければ成果として評価されない。たとえば手先が不自由な高齢者・障害者が、乗降時に狭い場所でせかせせながら小銭を扱うのが負担になっている。

21世紀の地方分権における街は市民の生活を軸として構想されるべきものであり、長い年月を経た建築や景観には、故郷を懐かしく思う気持ちにも似た不思議な外観がある。そこには都市で暮らす人々の記憶がやどり、過去と現在とを有機的に結びつける働きがある。魅力ある都市景観には感情に語りかける都市の風景はそこに住みたい、住んでよかったといえる街でありたい。

名古屋のものづくりは、産業開発での独自のものが、求められる重要な時代であり、独自性を出すには産学官連携による情報化社会ですべての人が共有し、誰でもわかり易い案内デザイン、街のユニバーサル情報共有マップ化、さらにデジタル配信提供が近く迫っていることから、住民と行政などが双方向にコミュニケーション、街で生活する多様な人々の声を取り入れることが極めて重要である、近年カメラ付き携帯電話の普及がされ街の中で情報を共有できる、まち情報発信を、拠点駅前ネットワーク化する連携まちづくりが有効である。(文献5)

インフラとしてのユビキタス社会を考え必要性の時期にきている。リアルとバーチャルを融合する情報基盤から導き出させるイノベーションの可能性は非常に大きい。食品トレーサビリティから自律移動支援まで、新しい応用が次々と誕生している。インフラ、つまり基盤整備が重要であることがやっと最近理解されるようになった。国家プロジェクトだけでなく、民間でもこのインフラを積極的に利用してビジネスに活かそうという動きが加速し始める。

ユビキタス社会が世界インフラを無くすため、便利な情報ネットワーク国家プロジェクトと協力し合っていっしょにユビキタス社会をつくることになしうる予測があることから、実験の計画が繰り返し

推進し展開されることを望まれる。このプロジェクトは公開情報を共有して世界の人たちと一緒に取り組を、日本から発信するにしても日本にためだけというものではなくこのユビキタスのインフラは、まだこれから10年ぐらいやらないと、世界に広げる着実にプロジェクトを推進すべきである。(文献6)



写真 名古屋の玄関口名古屋駅前

参考文献

- (1) 坂村健(2006)『ユビキタスでつくる情報社会基盤』、東京大学出版会、2006年9月22日
- (2) 【新聞記事から】: 2008年10月28日火曜日、日本経済新聞、朝刊、31面
- (3) 財日本都市計画学会監修、都市計画国際用語研究会編(2003)『都市計画国際用語辞典』、2003年11月20日、K60
- (4) 財名古屋都市センター(1996)『2010年名古屋のイメージ戦略』、名古屋のイメージ向上に関する調査研究、1996年10月
- (5) 前田保(2007)『地域のブランド戦略-産学官連携情報研究』、日本大学大学院研究論文、2008年3月
- (6) 第10回 NSRI 都市・環境フォーラム「持続可能都市のためのユビキタス」、2008年10月23日、日中友好会館にて、講師: 坂村健氏(東京大学大学院情報環教授/副学環長)

資料1 名古屋市(2000)『名古屋新世紀計画2010』、2000年11月、pp.47-76

資料2 名古屋市(2008)『名古屋市観光客・宿泊客動向調査』、2008年10月、名古屋市ホームページ閲覧

資料3 名古屋大学が名古屋市営地下鉄で無線LAN位置推定利用の実証実験、

<http://locky.jp/pr/nagoyaUG/http://locky.jp/pr/nagoyaUG/index.html>

資料4 名古屋大学が無線インターネット放送による名古屋市伏見長者町の活性化に関する研究開発、

<http://www.chojamachi.tv/about/index.html>

注

- 1) 2003年(平成15年)情報通信白書、pp.86
- 2) 名古屋市ホームページから名古屋市景観計画、<http://www.city.nagoya.jp>
- 3) 建設省(現国土交通省)(2000)『公共事業の責任(アカウンタビリティ)向上の取り組み状況について』、2000年11月30日
- 4) 名古屋市パンフレット、名古屋駅都市景観形成地区景観基準、「高度地区」の拡充 建物の高さのルールが変わりますー平成20年10月31日から実施ー